

2009年度 大学入試を振り返る

2009年度入試を振り返ると、「医学部の入学定員増」「難関国立大の後期廃止の拡大」といったトピックに加え、昨秋以降の急速な景気の悪化が志願動向に与えた影響も大きかった。既に本誌4・5月号で速報をお伝えしたとおり、今春の志願動向では「安全志向」「地元志向」がキーワードとなっている。

この度、各大学から今春入試の最終的な入試結果資料を送付いただいた。個々の状況については28ページ以降にまとめてあるので是非ご活用いただきたい。また、全国の高等学校の先生方にご協力をいただき約160万件の貴重な入試結果調査（合否）データを集めることができた。本誌ではこれらの集計結果を踏まえ、2009年度入試を総括したい。

国公立大学編

はじめに今春入試の受験環境について振り返っておきたい。高卒者数の減少は続いており、この春は前年から約2万2千人減少の約106万7千人（前年比98.0%）となる見込みである。しかし、大学志願者数は前年と比較して大きな変化はなかったと推測される。国公立大の志願者数は、センター試験の平均点ダウンもあってやや減少したものの、私立大の延べ志願者数は昨年を若干上回る数となっている。

高卒者数の減少にもかかわらず、大学志願者数が前年並みである要因は現役生の大学志願率の上昇にある。2006年度に初めて5割を超えた大学志願率は、その後も上昇を続けている。河合塾では2009年度入試も1.1ポイント程度の大学志願率の上昇を推測しており、結果として現役大学志願者数は前年とほぼ同数の約58万3千人と推測する。

既卒生も極端な減少には至らなかった。2009年度のセンター試験の既卒志願者数は約2千5百人減の106,133人（前年比97.7%）であった。既卒の大学志願者数の減少率も小幅であったと見てよいだろう。

合格者数は前期・後期ともに減少

さて、国公立大入試の状況であるが、既に本誌4・5月号で志願状況の分析結果をレポートした。改めてポイントを整理

すると、以下の4点が挙げられる。

- ①前期志願者数は前年比98.9%、微減に留まる
- ②センター試験の平均点は低下するも
旧帝大をはじめとする難関大の人気は堅調
- ③難関大・医学科では後期日程廃止が拡大
事実上前期1本勝負の形へ
- ④学部系統別では理学系・農学系が人気

【表1】は今回判明した合格者数を含む概況である。国公立大志願者の総数は475,017人で、前期で2,819人減（前年比98.9%）、後期は8,622人減（前年比95.9%）といずれも減少した。後期日程の減少は後期廃止大の影響が大きい。

合格者数は、募集人員が前年比97.7%と減少した後期日程では25,995人から25,358人（前年比97.5%）へと減少した。一方、前期日程も募集人員が約5百人増加したにもかかわらず、90,746人から90,419人（前年比99.6%）へと減少した。これは後述するが、一部大学で合格者数が極端に減少したことによる。倍率（志願者／合格者）は、前期が2.78倍から2.76倍、後期が8.02倍から7.88倍といずれも若干ではあるが低下した。

国立大では、2008年度から入学者が学部単位で定員超過率が基準値を超えた場合、超過学生分の授業料を国庫に返還す

【表1】国公立大入試結果 全体概況

		募集人員		志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)	
		08	09	08	09	前年比	08	09	前年比	08	09
国立	前期	63,590	63,851	197,168	194,996	98.9%	72,753	72,422	99.6%	2.71	2.69
	後期	17,379	16,956	168,957	158,444	93.8%	21,133	20,806	98.5%	7.99	7.62
	全体	80,969	80,807	366,125	353,440	96.5%	93,886	93,248	99.3%	3.90	3.79
公立	前期	13,598	13,857	55,510	54,863	98.8%	17,993	17,977	99.9%	3.09	3.05
	中期	1,939	1,915	26,680	25,357	95.0%	4,645	4,501	96.9%	5.74	5.63
	後期	3,376	3,332	39,466	41,357	104.8%	4,862	4,552	93.6%	8.12	9.09
	全体	18,913	19,104	121,656	121,577	99.9%	27,500	27,030	98.3%	4.42	4.50
国公立	前期	77,188	77,708	252,678	249,859	98.9%	90,746	90,419	99.6%	2.78	2.76
	中期	1,939	1,915	26,680	25,357	95.0%	4,645	4,501	96.9%	5.74	5.63
	後期	20,755	20,288	208,423	199,801	95.9%	25,995	25,358	97.5%	8.02	7.88
	全体	99,882	99,911	487,781	475,017	97.4%	121,386	120,278	99.1%	4.02	3.95

※数値は河合塾調べ

ることとなっている。この影響もあり、2008年度入試では合格者数を大幅に絞り込んだ大学が多数見受けられた。

今春入試では、基準値が2008年度の定員の1.3倍から1.2倍へと厳しくなったものの、すでに前年度入試で調整されていたこともあってか、前年ほどの大きな動きはみられなかった。それでも、**北見工業大**（工一前：募集人員173名）662人→460人（202人減）、**埼玉大**（経済一後：募集人員60名）130人→60人（70人減）、**山口大**（工一前：募集人員323名）508人→464人（44人減）といったように合格者の減少数が多い大学も一部で見受けられた。このような極端な合格者数の減少（あるいは増加）は、有名私立大と競り合う地方国公立大や首都圏近郊の中堅国公立大など、合格者の水増率が高い大学で起こりやすい。

来春入試では前述の基準値が1.1倍（定員100人未満の小規模学部は1.2倍）へとさらに厳しくなることが決まっている。国立大の定員超過率の平均値が1.067倍（08年度入試）であることを考えると、大学にとっては厳しい設定値であろう。今春入試で、水増率が高く、かつ大学の予想以上に歩留まりがよかった大学では、合格者数を抑える可能性があり注意が必要であろう。

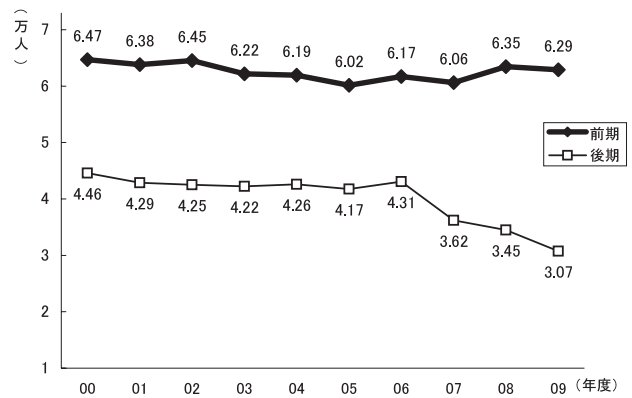
センター試験平均点ダウンも 難関大人気は衰えず

【グラフ2】は難関国立12大学の志願者数の推移である。前述のポイント②のとおり、センター試験の平均点ダウンにもかかわらず、12大学計の前期志願者数は前年比99.1%と微減に留まった。詳細は後述するが、私立大の最難関グループでは他地域の受験生の減少などが原因で志願者が減少しているのとは対照的である。旧帝大を中心としたこれら国立難関大に対しては、受験生が固い志望を持って出願した様子がかがえた。

【表3】はこれら難関大の入試結果をまとめたものである。前年度入試で大きく志願者を増やした**東京大**は、前年の反動は小さく志願者数の減少は小幅に留まった。東京大が公表している地域別合格者数をみると、過半数が関東以外の受験生となっていることから分かるように、東京大は旧帝大のなかではとりわけ他地域受験生の比率が高い。河合塾の入試結果調査データから東京大受験者の出身地域の増減を調べると、北陸・東海地区、近畿地区の受験生が減少しているものの、地元の関東地区のほか北海道地区、四国地区といった遠方の地域の受験者数が増加している。地方での積極的な説明会の実施や低所得世帯への授業料免除など、矢継早に繰り出される東大独自の改革も呼び水となっている感があり、東大熱は継続しているとみてよいだろう。

最も志願者の伸び率が大きかった**名古屋大**は、東海地区の受験生のシェアが約8割と非常に高い。しかし、今年度は河合塾の入試結果調査データでは他地域受験者が前年比114%

【グラフ2】 国立難関12大志願者数推移



※難関12大
旧帝大十一橋大・東京工業大・東京医科歯科大・神戸大・広島大

と増加していたのが特徴だった。

近年の難関大後期縮小の動きのまとめ

堅調に志願者を集めた前期日程とは対照的に、難関大の後期日程は【グラフ2】の通り志願者減少が続いている。今春入試は前年から約4千人減（前年比89.1%）となった。4学部中3学部で後期廃止・縮小を行った**一橋大**をはじめ、同様に一部学部（学科）で後期を廃止した**東北大**、**東京医科歯科大**、**九州大**で減少率が大きくなっている。また、後期日程を継続している**北海道大**、**大阪大**、**神戸大**、**広島大**も一様に志願者が減少しているのも今春入試の特徴である。

これら旧帝大を中心とした難関大の後期廃止が本格化して3年目を迎えた。来春は広島大の一部で後期廃止が予定されているものの、その動きは終息しつつある。そこで、この間に難関大志願者の併願パターンや後期の受験者層がどのように変化したのかを振り返ってみる。

【表4】は、後期を廃止（縮小）した**東京大**、**名古屋大**、**京都大**の前期受験者の後期併願先の変化を見たものである。共通しているのは後期非受験の割合が高まっていることで、後期の受験自体を諦めてしまう受験生の増加を裏付けている。また、併願校の顔ぶれの変化は大学ごとに特性が感じられるが、後期実施が残る難関大との併願者の増加が確認できる。

一方、後期を継続している学部の難易度はどのように変化したのか一例をみてみよう。【グラフ5】は、**一橋大**（経済）後期受験者の2次偏差値分布である。今春入試では学内で唯一後期募集人員を前年同数としたことから難化が予想され注目を集めていた。分布は難関大の後期廃止が始まる前の2006年度と今春入試とで比較した。受験者、合格者とも山が右へシフトしていることが分かる。特に、偏差値70.0以上の受験

【表3】 国立難関12大学 入試結果

	前期日程						後期日程							
	募集人員		志願者数 (A)			倍率 (A/B)	募集人員		志願者数 (A)			倍率 (A/B)		
	08	09	08	09	前年比	08	09	08	09	前年比	08	09		
北海道	1,918	1,920	5,586	5,506	98.6%	2.66	2.72	465	465	4,581	4,528	98.8%	8.96	8.62
東北	1,838	1,847	5,285	5,326	100.8%	2.67	2.63	123	93	1,573	1,354	86.1%	11.24	11.01
東京	2,953	2,961	10,083	9,877	98.0%	3.36	3.28	100	100	3,485	3,166	90.8%	34.85	31.66
東京医歯	187	202	822	740	90.0%	4.09	3.35	40	30	481	365	75.9%	9.43	9.13
東京工業	862	862	3,298	3,262	98.9%	3.54	3.53	146	146	2,370	2,145	90.5%	15.49	14.02
一橋	740	840	3,154	3,146	99.7%	4.13	3.65	190	80	2,496	1,566	62.7%	12.36	18.64
名古屋	1,718	1,708	4,866	5,153	105.9%	2.62	2.81		3		26			6.50
京都	2,819	2,844	7,801	7,991	102.4%	2.69	2.73	20		166			6.64	
大阪	2,547	2,557	7,361	7,201	97.8%	2.70	2.64	665	660	6,855	6,508	94.9%	8.91	8.49
神戸	1,804	1,809	5,854	5,669	96.8%	3.03	2.91	544	544	6,115	5,678	92.9%	9.57	8.63
広島	1,664	1,664	4,266	3,949	92.6%	2.25	2.07	357	362	2,894	2,529	87.4%	7.02	6.12
九州	1,973	1,995	5,082	5,074	99.8%	2.37	2.34	350	319	3,466	2,870	82.8%	8.67	7.86
難関12計	21,023	21,209	63,458	62,894	99.1%	2.83	2.79	3,000	2,802	34,482	30,735	89.1%	10.14	9.51

【表4】後期廃止（縮小）大前期受験者の後期併願校の変化

●東京大

06年度			09年度		
後期併願大	人数		後期併願大	人数	
1 東京大	1953		1 後期非受験等	1697	
2 後期非受験等	1477		2 東京	1185	
3 一橋	259		3 大阪	558	
4 大阪	219		4 東京工業	340	
5 京都	216		5 一橋	338	
6 東京工業	188		6 横浜国立	150	
7 東北	182		6 九州	150	

●名古屋大

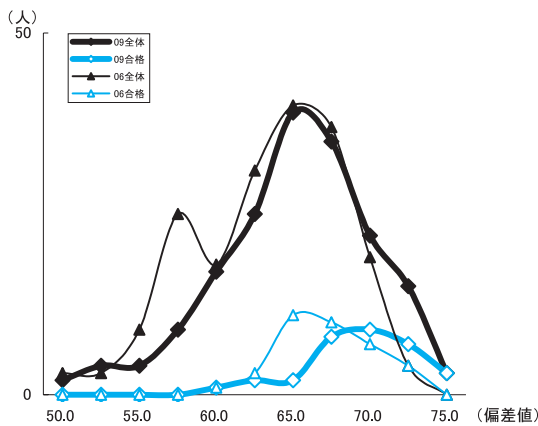
06年度			09年度		
後期併願大	人数		後期併願大	人数	
1 名古屋	1148		1 後期非受験等	1058	
2 後期非受験等	570		2 名古屋工業	711	
3 名古屋工業	374		3 名古屋市立	353	
4 名古屋市立	213		4 横浜国立	222	
5 横浜国立	132		5 静岡	189	
6 静岡	111		6 岐阜	158	
7 金沢	100		7 金沢	140	

●京都大

06年度			09年度		
後期併願大	人数		後期併願大	人数	
1 京都	1798		1 後期非受験等	1385	
2 後期非受験等	796		2 大阪	1182	
3 大阪	422		3 神戸	724	
4 神戸	294		4 九州	185	
5 名古屋	182		5 北海道	152	
6 九州	99		6 横浜国立	90	
7 東北	89		7 東北	85	

※河合塾入試結果調査データより

【グラフ5】一橋大（経済）後期 受験者の2次学力分布



※グラフは当該大受験者の全統記述模試時の偏差値をもとに作成した学力分布（河合塾入試結果調査データより）

者の山が一際高くなっているのが目を引く。ただし、前期合格者が抜けた実際の受験者層は、大きな変化を見せていない大学もあり、受験生に警戒されて志願者が減少した結果、競争が緩和された大学もある。

学部系統別の人気の変化と
医学科定員増の影響

次に学部系統別の状況を確認しておく。各学部系統の入試結果は【表6】にまとめた。

昨年模試で人気の高かった「理」「農」といった系統では予想通り志願者が増えた。一方、前年度入試で人気が高かった「経済」「工」は、景気悪化の影響で人気に変化が生じ

るのが注目されたところであったが、いずれも志願者は微減に留まっている。景気悪化が本格化したのが昨秋以降だったこともあり、受験生の志望はある程度固まっていたため、最終的な志願動向にも大きな変化は生じなかった。ただし、今後は実学・資格系学部の人気の高まりも予想される。

今春入試で注目されたのが、過去最大規模の入学定員となった医学科であった。政府の方針により国立大では医学科を持つ全50大学で420名の定員増となった。選抜方法別に内訳をみると推薦入試で111名、AO入試で60名、一般入試で249名の定員増となった。今春入試においては、定員増の認可時期が遅かったこともあり、増加分の定員の多くは一般入試に振り分けられた。

では、定員増により医学科は易化したのだろうか。今春入試の一般入試の前期志願者数は17,040人（前年比98.8%）と定員増にもかかわらず志願者は減少した。河合塾が設定した2次試験のボーダーランクも12大学で1~2ランクダウン（5大学でランクアップ）しており、全体的には易化の方向に向かったといえる。

個々の大学をみていくと、最難関である**東京大**（理科3類）前期では、募集人員増の影響もあってか、志願者数が約3割増加し前年以上に厳しい入試となった。ただし、多くの大学はボーダー近辺で競争が緩和されている。明らかな易化が感じられるのが、極端な募集人員増となった募集区分で【表7】はその一例である。

また、AO入試や推薦入試の受験者について、一般入試の試験科目を使用して偏差値分布を作成してみると「一般入試と比較して明らかに分布が低い」「可否との相関がはっきりしない」大学も目立った。

今年の医学科の定員増は、認可時期の関係で多くは一般入試に組み込まれた。来春入試ではこれを推薦やAO入試にシフトする大学が出てきている。後期日程が廃止されていくこともあり、今後は国立大医学科志願者の受験戦略において、推薦・AO入試の活用も看過できないものとなっていくだろう。

2010年度入試のトピックス

最後に、2010年度入試について前述したものほかに判明している情報をまとめておく。

2010年度入試では芸術系2大学で日程の変更が予定されている。**東京芸術大**（美術）は募集を後期日程のみで行っていたが、前期日程に変更となる。一方、**愛知県立芸術大**（美術）は前期日程のみの募集を後期日程に変更する。愛知県立芸術大は音楽学部も後期日程のみの実施となっており、全学後期日程のみの募集となる。

後期日程廃止の動きは落ち着きつつある。2010年度入試でも**筑波大**（人文・文化学群-日本語・日本文化学類）、**金沢大**（医薬保健-保健-作業療法学）、**広島大**（教育-言語文化教育、理-生物科学、医-保健、歯-口腔保健）、**大分大**（医-医）、**札幌医科大**（保健医療）、**和歌山県立医科大**（医-医）など数大学で後期日程の廃止が予定されているが、影響は局地的なものとなりそうだ。一方、岐阜大では、工学部の募集人員69名分を前期から後期へシフトする。同大学の後期日程はあわせて入試科目の変更も予定しており、志願動向に変化が起こりそうである。

後期日程廃止と連動して拡大を続けている国立大のAO入試は、2010年度も**東京農工大**（農-環境資源科学）、**広島大**（歯-口腔保健）、**大分大**（医-医）などで新たに導入される。東京農工大は大学として初のAO入試となる。一方で、**九州大**（法）がAO入試の廃止を公表している。2009年度入試では筑波大（社会・国際学群-国際総合学類）、一橋大（商）で廃止された。一般・推薦選抜に次ぐ第三の入試として拡大してきたAO入試であるが、入学後の学力追跡などの検証が進んだことと表れとみることができよう。

大学の新設では、**新見公立大**が予定されている。新見公立

【表6】 国公立大（前期日程）学部系統別入試結果

系統	募集人員		志願者数 (A)			合格者数 (B)			倍率 (A/B)	
	08	09	08	09	前年比	08	09	前年比	08	09
文・人文・外国語	7,406	7,407	25,871	25,806	99.7%	9,138	8,971	98.2%	2.83	2.88
社会・国際	1,998	2,099	7,961	8,184	102.8%	2,623	2,719	103.7%	3.04	3.01
法・政治	4,177	4,185	14,717	13,803	93.8%	4,963	4,923	99.2%	2.97	2.80
経済・経営・商	7,937	7,985	29,450	28,719	97.5%	10,152	10,131	99.8%	2.90	2.83
教育－教員養成課程	6,697	6,754	18,872	18,692	99.0%	7,574	7,621	100.6%	2.49	2.45
教育－総合科学課程	2,877	2,781	10,050	9,031	89.9%	3,351	3,220	96.1%	3.00	2.80
理	4,953	4,944	14,139	14,791	104.6%	5,706	5,653	99.1%	2.48	2.62
工	22,076	22,006	62,821	62,176	99.0%	25,881	25,349	97.9%	2.43	2.45
農・林・水産・獣医	5,344	5,359	16,677	17,288	103.7%	6,168	6,167	100.0%	2.70	2.80
医・歯・薬・保健	9,659	10,078	37,469	37,112	99.0%	10,347	10,847	104.8%	3.62	3.42
医	3,116	3,393	17,240	17,040	98.8%	3,189	3,502	109.8%	5.41	4.87
歯	459	459	1,866	1,575	84.4%	489	508	103.9%	3.82	3.10
薬	785	790	3,020	2,750	91.1%	842	869	103.2%	3.59	3.16
看護	3,577	3,645	9,986	10,525	105.4%	3,945	3,986	101.0%	2.53	2.64
医療技術・他	1,722	1,791	5,357	5,222	97.5%	1,882	1,982	105.3%	2.85	2.63
家政・生活科学	637	687	2,221	2,185	98.4%	715	765	107.0%	3.11	2.86
芸術・体育	1,199	1,202	4,833	4,503	93.2%	1,331	1,311	98.5%	3.63	3.43
総合・環境・情報・人間	2,228	2,221	7,597	7,569	99.6%	2,797	2,742	98.0%	2.72	2.76
全体	77,188	77,708	252,678	249,859	98.9%	90,746	90,419	99.6%	2.78	2.76

※数値は河合塾調べ、学部系統の分類は河合塾による

【表7】 医学科定員増に伴う学力分布の変化

(例1) 募集人員大幅増の医学科 合格者の学力層が広がったパターン

		40.0		45.0		50.0		55.0		60.0		65.0		70.0		75.0		計
09前期	合									1	2	7	10	9	9	1		39
	不合		1	2	3	3	5	8	10	24	23	3	26	20	5	8	1	162
08前期	合												3	3	4	6	4	20
	不合				1	4	5	3	15	11	15	22	18	11	6	5	1	117

(例2) AO入試の募集枠の大きい医学科 前期日程とAO入試の合格者の学力層が異なるパターン

		40.0		45.0		50.0		55.0		60.0		65.0		70.0		75.0		計
前期	合	1	2	1	4	5	4	11	17	17	21	2	5	4	9	2		24
	不合										12	18	9	4	3	1		130
AO	合					1	2	5	4	4				1				17
	不合					1	3	3	3	5	3							18

※河合塾入試結果調査データより

短大内の3年制の看護学科を4年制化しての新設である。なお、同短大内の他の2学科（幼児教育学科、地域福祉学科）は短大として存続する。

また、公設民営の私立大として運営されている静岡文化芸術大が2010年度より公立大学法人化を予定している。この4月より同様に公立大学法人へ移行した高知工科大では、今春の一般入試の志願者数が前年の452人の約11倍となる4,888人

に膨れ上がった。静岡文化芸術大も授業料が法人化に伴い減額となることから人気を集めそうだ。

このほかにも、入試科目の変更、学部・学科の新設・再編や募集区分の変更などを予定している大学がある。本誌14ページ以降に一部をまとめているほか、河合塾の入試情報サイトKei-Netでも最新の情報を掲載しているので、是非ご利用いただきたい。

私立大学編

ここからは私立大の入試状況を見ていく。本誌4・5月号では、全国主要199大学の一般入試（二期入試および夜間主・2部除く）の志願状況を速報としてお伝えした。今号では、志願者・受験者・合格者数の集計が完了した全国500大学の入試結果をもとに、2009年度の私立大一般入試についてレポートする。

**志願者数は前年並み
合格者数は2年連続の減少**

初めに私立大一般入試の近年の状況を振り返っておく。私立大では2006年度までの3年間、志願者（延べ数：以降全て延べ数）減少が続いていた。しかし、2007年度入試で志願者は増加に転じ、2008年度入試も僅かではあるが引き続き増加した。ただしこの間、全ての私立大で志願者が増加したので

はない。志願者が集まる大学と集まらない大学とに二極化し、それが拡大した。では2009年度入試の特徴をみていこう。

今春行われた2009年度入試では、センター方式を含めた私立大一般入試全体の志願者は、前年を約1万8千人上回る262万6千人（前年比100.7%）であった【表8】。入試方式別の内訳では、一般方式が180万8千人（前年比100.5%）、センター方式では81万8千人（同101.1%）となっている。志願者数で見れば、ほぼ前年並みの入試であった。ただし、2008年度とは異なる点がある。本誌4・5月号でも既にレポートしたが、今春入試の特徴の1つは、センター方式の志願者数の伸びが止まったことである。

近年のセンター方式の志願者数は毎年5～10%程度の伸びを示してきた。これは都市部の大規模大でのセンター試験利用学部の増加、利用方式の複線化が主要因であったが、今春は志願者数増加を牽引してきたこれらの大学の中で志願者数の伸び止まりや減少が目立つ。新規利用学部、新規方式に志願者が集まっても、既存の学部、方式でそれ以上に志願者数が減少しているケースが見受けられるのである。今春はセンター試験の平均点ダウンによる出願控えも重なり、全体としては、志願者数は前年から微増で落ち着くこととなった。

次に合格者数に注目すると、私立大全体では前年比98.2%であった【表8】。倍率（志願者／合格者：以降倍率は全て「志願者／合格者」）も2年連続の上昇となった。国公立大同様私立大でも定員超過に敏感になっており、昨年同様に合格者が厳しく絞り込まれている大学があるためである。河合塾が行った入試結果調査では合格者数が減っている一方で、補欠・追加合格者数が昨年より増加しており、大学が慎重に合格者を出している様子がうかがえる。なお、入試方式別には、一般方式で前年比99.3%、センター方式で同96.2%となっており、昨春大きく合格者を絞り込んだ一般方式で緩やかになっている。

今春入試で合格者数が大きく減少した大学は、立命館大△2,185人（前年比91.8%）、東京理科大△1,475人（同91.4%）、専修大△1,122人（同88.3%）、関西大△1,023人（同93.9%）、武庫川女子大△993人（同73.8%）、中京大△897人（同86.1%）、駒澤大△897人（同89.7%）などとなっている。なかでも関西大は昨春も前年より1,500人程度合格者を減らしており、2年連続の大幅減となった。

過熱気味だった難関大人気は落ち着く 関関同立は2年連続志願者減少

今春入試のもう一つの特徴は、近年躍進を続けていた難関大の志願者数増加が止まったことである。【表9】は首都圏・近畿圏の21大学の入試結果を大学グループ別に集計したものである。「早慶上理」「関関同立」の東西最難関グループで志願者が減少、「MARCH」で微減となっている。なお、「日東駒専」では志願者が増加、「産近甲龍」では前年並みとなっている。

近年、都市部の大規模大では志願者数を増加させてきた【グラフ10】。その要因は、学部新設や入試方式の複線化により1人あたりの出願数増加を促したこと、また他地区の受験生を取り込んだことなどである。しかし昨春は「関関同立」で志願者数が減少に転じ、今春は「早慶上理」、「MARCH」でも減少と変化が生じている。昨年の模試段階から見られた傾向であったが、過熱気味だった難関大人気に落ち着きが戻り始めているようである。

この変化には昨秋以降の景気悪化も無関係ではない。今春は難関大で他地区からの出願が控えられている。【表11】は「早慶上理」、「MARCH」の志願者数を出身地区別に分けたものである。両グループとも地元の関東地区の志願者数は増加しているが、他地区出身の志願者は「MARCH」の近畿地区を除いて減少している。同様の傾向は「関関同立」にも見られる。【グラフ12】は志願者数増減と地元占有率の関係をグラフ化したものである。地元占有率が低い、つまり全国区で志願者を集める大学ほど志願者の減少率が高くなっている。

もう一つ見られる傾向として、記念受験的な出願が減少していることが挙げられる。早稲田大法学部一般方式を例にとると、志願者数は前年比87.5%と大きく減少したが、河合塾の調査では減少しているのは主にボーダーライン以下の成績層であった。難関大の志願者減少はこのような要因によるものと考えられる。なお、出願を取りやめた分は押さえの大学の出願校数を増やしているようで、一人あたりの出願校数に大きな変化はない。首都圏を例にとると、「早慶上理」で減少、「MARCH」で微減、「日東駒専」をはじめとする首都圏中堅伝統校で増加といったように、志願者数がスライドしている。

【表8】私立大入試結果（一般・センター／一期・二期別）

	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)			
	07	08	09	08/07	09/08	07	08	09	08/07	09/08	07	08	09	
全体	2,568,655	2,607,729	2,625,710	101.5%	100.7%	770,753	753,058	739,394	97.7%	98.2%	3.3	3.5	3.6	
方式別	一般	1,834,131	1,798,416	1,807,648	98.1%	100.5%	519,800	480,134	476,889	92.4%	99.3%	3.5	3.7	3.8
	センター	734,524	809,313	818,062	110.2%	101.1%	250,953	272,924	262,505	108.8%	96.2%	2.9	3.0	3.1
期別	一期	2,396,375	2,437,073	2,456,551	101.7%	100.8%	726,296	709,413	694,514	97.7%	97.9%	3.3	3.4	3.5
	二期	172,280	170,656	169,159	99.1%	99.1%	44,457	43,645	44,880	98.2%	102.8%	3.9	3.9	3.8

※5月22日現在 河合塾集計（500大学判明分）

※集計は2007～09年度の3年分について志願者数・合格者数を公表している大学を集計（合格者数の未判明やいずれかの年度データが非公表の学部・学科等については集計対象から除く）。また2007・2008年度の数値には、2008年度に慶應義塾大と統合した共立薬科大、東海大と統合した北海道東海大、九州東海大、2009年度に関西学院大と統合した聖和大学の4大学を含む。【表9】以降も同条件で作成

【表9】私立大入試結果（大学グループ別）

	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	07	08	09	08/07	09/08	07	08	09	08/07	09/08	07	08	09
500大学 計	2,568,655	2,607,729	2,625,710	101.5%	100.7%	770,753	753,058	739,394	97.7%	98.2%	3.3	3.5	3.6
下記大学計	1,256,223	1,325,851	1,309,689	105.5%	98.8%	291,179	285,930	281,675	98.2%	98.5%	4.3	4.6	4.6
早慶上理	242,627	253,220	246,257	104.4%	97.3%	50,445	50,142	48,953	99.4%	97.6%	4.8	5.1	5.0
MARCH	372,118	406,536	402,910	109.2%	99.1%	73,209	72,607	72,224	99.2%	99.5%	5.1	5.6	5.6
日東駒専	192,784	211,056	220,865	109.5%	104.6%	57,211	57,891	55,759	101.2%	96.3%	3.4	3.6	4.0
関関同立	295,594	289,464	274,292	97.9%	94.8%	71,822	70,396	68,669	98.0%	97.5%	4.1	4.1	4.0
産近甲龍	153,100	165,575	165,365	108.1%	99.9%	38,492	34,894	36,070	90.7%	103.4%	4.0	4.7	4.6

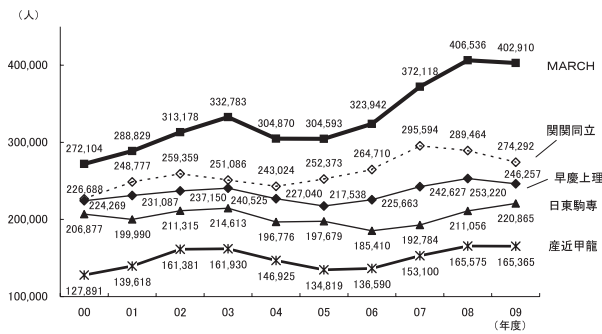
※大学グループ

早慶上理：早稲田・慶應義塾・上智・東京理科大学
関関同立：関西・関西学院・同志社・立命館

MARCH：明治・青山学院・立教・中央・法政
産近甲龍：京都産業・近畿・甲南・龍谷

日東駒専：日本・東洋・駒澤・専修

【グラフ10】 主要大学グループの志願者数推移



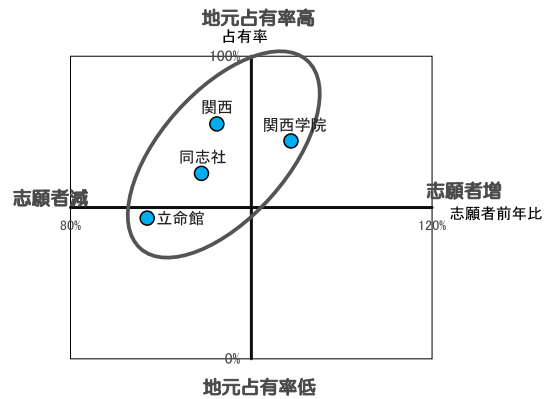
景気悪化による出願校の厳選にセンター試験難化による安全志向が加わり、難関大を敬遠する動きが顕著に見られた。

増加大の顔ぶれが難関大から中堅伝統校に入れ替わる

【表13】は今春の一般入試における志願者数増加大学と減少大学のトップ20である(人数差順)。この表は志願者増減の絶対数を基準としており、ここに挙がるのは入試規模の大きな大学ということになる。それゆえこの表での順位が人気・不人気の順位を表すものではないことを予めお断りしておく。

さて、昨年は多くの首都圏難関大が志願者増加大学に顔を出していたが、今春は青山学院大、中央大が顔を出しているのみである。代わって上位を占めているのは、東洋大、千葉

【グラフ12】 関関同立 志願者数増減と地元占有率の関係



※地元占有率は一般選抜の全志願者に占める近畿地区6府県出身者の割合で、08年度の大学公表入試結果より算出

工業大、芝浦工業大、日本大など中堅校である。これらの大学には学部・学科の新設、新規センター利用学部の拡大、キャンパス移転、併願受験料の無料化といった理由もあるが、これといった志願者増加要因がない学部・学科でも増加が見られる。受験生の安全志向の結果、志願者が増加した学部・学科もあったものと推測される。

次に志願者減少大学をみると、減少が大きい大学には2つのパターンが見られる。1つは前年の増加の反動で志願者が

【表11】 早慶上理、MARCH 出身地区別志願者数の変化

大学	東北地区受験生			関東地区受験生			東海地区受験生			近畿地区受験生		
	昨	今	前年比	昨	今	前年比	昨	今	前年比	昨	今	前年比
早稲田	1,771	1,707		29,648	29,894		5,558	5,338		2,515	2,379	
慶應義塾	659	609	97	11,826	12,098	103	2,952	2,415	93	1,178	1,076	92
上智	206	220		6,897	7,853		897	837		349	280	
東京理科	1,228	1,223		12,542	13,021		3,436	3,383		506	462	
青山学院	876	1,112		10,721	13,648		2,397	2,671		576	679	
中央	2,279	2,270		15,116	16,930		3,721	3,912		784	781	
法政	2,575	2,194	98	23,065	20,980	103	5,072	4,041	95	645	640	105
明治	2,545	2,454		27,382	26,804		5,138	4,870		870	951	
立教	1,078	1,106		21,968	22,426		2,315	2,189		433	419	

※河合塾入試結果調査データより作成

【表13】 私立大志願者数増加・減少大学(人数差)

●増加した大学

大学	07	08	09	09-08	08/07	09/08
①東洋	60,361	59,638	69,157	9,519	98.8%	116.0%
②千葉工業	12,660	9,877	17,653	7,776	78.0%	178.7%
③青山学院	45,550	47,210	54,930	7,720	103.6%	116.4%
④芝浦工業	20,104	23,965	28,858	4,893	119.2%	120.4%
⑤高知工科	441	452	4,888	4,436	102.5%	1081.4%
⑥日本	71,486	85,942	90,273	4,331	120.2%	105.0%
⑦京都産業	21,947	26,239	29,887	3,648	119.6%	113.9%
⑧中央	66,396	81,981	85,092	3,111	123.5%	103.8%
⑨國學院	17,487	15,312	18,281	2,969	87.6%	119.4%
⑩松山	6,279	5,705	8,668	2,963	90.9%	151.9%
⑪東京都市	11,824	11,615	14,449	2,834	98.2%	124.4%
⑫東京農業	24,947	22,720	25,422	2,702	91.1%	111.9%
⑬西南学院	14,749	16,937	19,578	2,641	114.8%	115.6%
⑭成城	20,052	16,587	18,891	2,304	82.7%	113.9%
⑮関西学院	49,108	49,977	52,180	2,203	101.8%	104.4%
⑯東京女子	8,066	9,584	11,571	1,987	118.8%	120.7%
⑰獨協	14,069	14,561	16,473	1,912	103.5%	113.1%
⑱玉川	9,370	8,036	9,850	1,814	85.8%	122.6%
⑲亜細亜	10,668	7,555	9,263	1,708	70.8%	122.6%
⑳福岡	37,180	37,792	39,436	1,644	101.6%	104.4%

●減少した大学

大学	07	08	09	09-08	08/07	09/08
①法政	90,216	97,017	85,686	-11,331	107.5%	88.3%
②立命館	98,761	95,597	84,600	-10,997	96.8%	88.5%
③早稲田	125,647	125,249	121,166	-4,083	99.7%	96.7%
④甲南	26,369	28,847	24,888	-3,959	109.4%	86.3%
⑤関西	101,410	93,672	90,066	-3,606	92.4%	96.2%
⑥慶應義塾	47,697	53,316	49,889	-3,427	111.8%	93.6%
⑦帝京	26,214	28,819	25,681	-3,138	109.9%	89.1%
⑧同志社	46,315	50,218	47,446	-2,772	108.4%	94.5%
⑨明治	102,451	108,946	106,261	-2,685	106.3%	97.5%
⑩駒澤	29,249	32,691	30,131	-2,560	111.8%	92.2%
⑪中京	19,408	22,503	20,566	-1,937	115.9%	91.4%
⑫京都女子	10,351	9,848	7,988	-1,860	95.1%	81.1%
⑬明治学院	31,070	29,238	27,403	-1,835	94.1%	93.7%
⑭専修	31,688	32,785	31,304	-1,481	103.5%	95.5%
⑮大東文化	14,338	14,839	13,391	-1,448	103.5%	90.2%
⑯甲南女子	2,913	8,023	6,581	-1,442	275.4%	82.0%
⑰武蔵野美術	6,996	11,047	9,626	-1,421	157.9%	87.1%
⑱金沢工業	5,870	5,401	4,144	-1,257	92.0%	76.7%
⑲文教	15,212	14,295	13,225	-1,070	94.0%	92.5%
⑳津田塾	5,125	6,148	5,144	-1,004	120.0%	83.7%

減少している大学で、**法政大、慶應義塾大、同志社大、明治大、駒澤大、中京大**などがこれにあたる。いずれも昨春入試では志願者増加大ベスト20にランクインしていた大学である。最も志願者数が減少した法政大は大学全体では1万人以上も減らした。新設のスポーツ健康学部は志願者を集めたが、その他の学部で大きく減少した。昨春までの2年間は急激に志願者が増加していたため、その反動も大きかったものと思われる。

もう1つのパターンは志願者減少が続いている大学である。**立命館大、関西大、京都女子大、明治学院大**などでは2年連続して志願者が減少している。昨春は連続して志願者が減少していたのは地方の単科大学が多かったが、今春は都市部の大規模大学でも目立った。

人気は国公立同様「理」「農」学系 景気悪化の影響は一部にとどまる

【表14】は系統別の入試結果を集計したものである。大筋はGL4・5月号でお伝えした内容と変化ないが、特徴的な系統について再度取り上げておく。

文系各系統では「**文・人文・外国語**」系で志願者数は前年を上回った。これは**青山学院大**（教育人間科学）、**関西大**（外国語）、**関西学院大**（教育）など、難関大での学部新設の影響である。「**社会・国際**」系では志願者数は前年を下回るが、「**社会福祉**」分野では前年比105.6%と増加した。「**経済・経営・商**」系では景気悪化の影響はあまり感じられず、前年並みの志願者となった。文系各系統で志願者減少の比率が最も高かったのは「**法・政治**」系で、難関大で志願者減少が目立つ。新司法試験合格率の低迷など、法曹への失望感が不人気につながったものと思われる。

理系各系統では「**理**」「**農・林・水産・獣医**」系の伸びが大きい。「**理**」学系では全分野で志願者が増加しているが、とくに「**数学・数理情報**」「**物理**」分野の人气が高かった。「**農・林・水産・獣医**」系では分野により対照的な動きを示す。「**生物生産・応用生命**」「**環境科学・経済システム**」「**水産**」分野では志願者が大きく増えたが、「**獣医**」「**酪農・畜産**」分野では減少した。とくに「**獣医**」分野では倍率が07年度の9.6倍から09年度は8.2倍まで緩和してきている。

「**医・歯・薬・保健**」系では「**看護**」分野で志願者増加が続く。大学・学部新設の影響が大きい。既存の学部、方式でも志願者が増加している大学も目立ち、「**社会福祉**」分野同様人気の上昇を感じる。ただし、「**看護**」分野は合格者数も増加しており、倍率はダウンしている。入学定員増で注目された医学科では志願者は前年比102.4%と増加したが、合格者数も定員増により前年より約1割増加したため、倍率はダウンした。大学によっては前年よりかなり多くの合格者を

出したところも見受けられ、例年以上に歩留まり率が悪かった大学もあったものと推測する。「**歯**」「**薬**」の分野では志願者減少が続く。とくに歯学部では前年の6割まで志願者数が減少した。2009年度入試では入学定員を削減した大学もあったものの、合格者数は昨春以上に出ており、倍率は1.7倍と2倍を切っている。薬学部では、日本私立大学薬学会の調査によると、昨春私立57大学中22大学で定員割れを起こしていたが、今春も大学にとって厳しい状態が続いている。

2009年度の私立大一般入試はほぼ前年並みの志願者を集めた。景気悪化の影響で出願校数の減少も予想されたが、河合塾の入試結果調査データでは一人あたりの受験校数はほとんど変化はなく、結果として私立大入試の志願者数は減少しなかった。これは現役で大学へ入学したいという志向が例年以上に強く、出願先を変更しても出願校数は変えなかった受験生が多かったためと推測される。現時点で景気回復の兆しは見られず、来春入試では志願者数の減少、学部系統の人気不人気の変化など、不況の影響がより鮮明に表れるものと予想する。このような状況で志願者減少が目立った難関大に来春は志願者が戻るのか注目したいところである。

また、景気の動向に関わらず、多くの私立大にとっては厳しい時代に入っている。こうしたなか大学の再編が活発になっている。高知工科大に続き、公設民営大の公立大学法人化計画が各地で明らかになっているほか、上智大と聖母大の統合や、大学・短大の募集停止といった話も出てきている。国公立大も含めた大学の再編がどう進むのか、ここ数年は見逃せなくなりそうである。

2010年度もすでに多くの大学・学部の新設が公になっている。入試方式等の変更もこれから夏にかけて徐々に明らかになっていく。今回は本誌10月号にて2010年度入試の最新動向をお伝えする。

【表14】私立大入試結果（学部系統別）

系統	志願者数 (A)					合格者数 (B)					倍率 (A/B)		
	07	08	09	08/07	09/08	07	08	09	08/07	09/08	07	08	09
文・人文・外国語	520,284	528,292	537,120	101.5%	101.7%	158,440	160,591	157,882	101.4%	98.3%	3.3	3.3	3.4
社会・国際	242,261	243,908	240,427	100.7%	98.6%	69,947	65,305	63,667	93.4%	97.5%	3.5	3.7	3.8
法・政治	254,943	249,317	240,812	97.8%	96.6%	67,650	66,325	65,236	98.0%	98.4%	3.8	3.8	3.7
経済・経営・商	569,093	592,245	593,001	104.1%	100.1%	143,431	141,293	135,882	98.5%	96.2%	4.0	4.2	4.4
理	85,641	93,029	97,134	108.6%	104.4%	35,153	34,611	32,403	98.5%	93.6%	2.4	2.7	3.0
工	347,235	356,487	363,859	102.7%	102.1%	144,356	130,954	128,157	90.7%	97.9%	2.4	2.7	2.8
農・林・水産・獣医	69,498	68,763	74,358	98.9%	108.1%	21,810	22,310	22,110	102.3%	99.1%	3.2	3.1	3.4
医・歯・薬・保健	225,667	222,277	217,196	98.5%	97.7%	53,053	53,811	55,462	101.4%	103.1%	4.3	4.1	3.9
家政・生活科学	65,329	60,919	61,368	93.2%	100.7%	21,204	21,394	20,908	100.9%	97.7%	3.1	2.8	2.9
芸術・体育	83,349	84,688	82,133	101.6%	97.0%	23,884	24,462	24,713	102.4%	101.0%	3.5	3.5	3.3
総合・環境・情報・人間	105,355	107,804	118,302	102.3%	109.7%	31,825	32,002	32,974	100.6%	103.0%	3.3	3.4	3.6
全体	2,568,655	2,607,729	2,625,710	101.5%	100.7%	770,753	753,058	739,394	97.7%	98.2%	3.3	3.5	3.6

※大学計で入試結果を公表している大学は上表には含まない